

## COC+事業における特色人材育成部門まちづくりWGの活動報告（その3）\*

吉村 朋矩<sup>\*1</sup>, 伊豆蔵 庫喜<sup>\*2</sup>

### Report of Educational Activity for Distinctive Human Resource Development in Community Planning Working Group of COC+ Program (PART 3)

Tomonori YOSHIMURA<sup>\*1</sup> and Kouki IZUKURA

<sup>\*1</sup> Faculty of Engineering, Department of Architecture and Civil Engineering

MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) is being conducted program for promoting regional revitalization by universities as centers of community (COC+ program) at present. The purpose of COC+ is to make a flow to the regional of "core person" for the regional revitalization. This program is supporting the distinctive university. It was also adopted by COC+ in Fukui prefecture. All four-year university in Fukui prefecture have been tackling COC+ program. Therefore, We'll make a report of its past activities in the community planning working group for fiscal year 2018. Especially introduce the practical workshop worked especially in Takahama town, Fukui Prefecture.

**Key Words** : COC+Program, Human Resources Development, Regional Revitalization

#### 1. はじめに

福井県内の4年制大学（福井大学，福井県立大学，福井工業大学，仁愛大学，敦賀市立看護大学）が連携する5大学連携事業として、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+ : Centers of Community）」に採択され、「ふくいCOC+事業推進協議会」が設置されている。筆者らは，教育プログラム開発委員会特色人材育成部門のまちづくり分野ワーキング（以下，まちづくりWGという。）に所属している。まちづくりWGは，特色人材育成部門のワーキングの中で，唯一5大学が連携し協働で運営している組織である。

そこで本稿では，まちづくり分野WGとして2016年度より高浜町において取り組んできている2018年度の“まちづくり実践ワークショップ（以下，実践WSという。）”の過程と実践を中心に報告する。2016年度および2017年度の実践WSの報告，まちづくりWGでの議論の活性化・活動内容の深化を図るために本学で独自に筆者らが取り組んできた内容，まちづくりWGの構成員，各大学の役割については別途参考にされたい<sup>(1)(2)</sup>。

#### 2. 2018年度の取り組み

まちづくりWGでは，これまでに特色人材育成部門の全体会議や事業成果報告会での発表，和田de路地祭（以下，路地祭という。）実行委員会への参加，学生会議を含めTable.1に示すよう，2018年度には20回に亘り活動を行ってきた。WG会議については，2018年4月から現在までにメール審議での会議を含めて7回開催している。さらに，5大学の学生・教職員が連携するとともに，福井県高浜町の協力を得て実践WSを2018年4月から7月に開催している。2018年には，福井県内で第73回国民体育大会ならびに，第18回全国障害者スポーツ大会が開催されたため，例年，和田地区で9月に開催される路地祭が7月に開催された。このことから，実践WSも路地

\* 原稿受付 2019年3月29日

<sup>\*1</sup> 工学部 建築土木工学科

<sup>\*2</sup> 大学事務局

E-mail: yoshimura@fukui-ut.ac.jp

祭と合わせて時期を早めた。その他、本学独自の取り組みとして、実践 WS での企画実施や学生が地域に関わる先進事例地へのフィールドスタディを実施してきている。例えば、これまで親交を深めてきた学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催する第5回「多摩の学生 まちづくり ものづくりコンペティション2018」に参加した。これにより、地域で学生が積極的に活動するためには、自治体や住民を含めた体制が必要であること、地域と協創を図るための組織運営化・大学間連携による目標の共有性が重要であること等を再認識することができた。

Table.1 まちづくり WG での取り組み（2018 年度）

年度	回数	日時 / 場所	特色人材育成部門	WG会議	まちづくり実践WS
2018年	1	4月18日（水） / 高浜町和田地区			第1回 路地祭実行委員会
	2	4月21日（日） / 高浜町和田地区			和田地区を知るためのまち歩き
	3	4月25日（水） / 福井市某所			学生メンバー顔合わせ会
	4	4月26日（木） / 福井大学		第1回 まちづくり分野WG	第1回学生会議
	5	4月28日（土） / 高浜町和田地区			和田地区を知るためのまち歩き
	6	5月12日（土） / 高浜町和田地区			和田地区を知るためのまち歩き
	7	5月14日（月） / 福井大学			第2回学生会議
	8	5月16日（水） / 高浜町和田地区			第2回 路地祭実行委員会
	9	5月30日（水） / Fスクエア（大学連携センター）		第2回 まちづくり分野WG	第3回学生会議
	10	6月1日（金） / 高浜町和田地区			学生泊まり込み・現地作業開始
	11	6月8日（金） / 高浜町和田地区			第3回 路地祭実行委員会
	12	6月21日（木） / 福井工業大学	第4回(2018年度第1回目) 特色人材育成部会全体会	第3回 まちづくり分野WG	
	13	6月22日（金） / 高浜町和田地区			第4回 路地祭実行委員会 決起集会
	14	6月31日（土） / 高浜町和田地区			長街宴（前夜祭）
	15	7月1日（日） / 高浜町和田地区			『第10回 和田de路地祭』で COC+企画の実施
	16	11月29日（木） / メール審議		第4回 まちづくり分野WG	
	17	12月15日（土） / AOSSA	特色人材育成部会 事業成果報告会		
	18	12月 / メール審議		第5回 まちづくり分野WG	
2019年	19	3月4日（月） / たわら屋		第6回 まちづくり分野WG	
	20	3月 / メール審議		第7回 まちづくり分野WG	

### 3. まちづくり実践ワークショップ

#### 3.1 まちづくり実践ワークショップに向けた準備・過程

各大学の専門分野や特色・強みを活かし、実践的なまちづくりを行うことを目的に実践 WS を 2016 年度より実施している。2018 年 7 月に開催される路地祭と同時に開催することを第 1 回目まちづくり分野 WG 会議および学生会議で決定した。これまでは空民宿や空店舗、路地といった場所で班編成を行ってきたが、2018 年度は場所ではなく、①企画・ものづくり、②広報、③飲食といったコンテンツ別に班編成を行った。これは、2016 年度および 2017 年度の反省点であった“路地祭であるにも係わらず、場所に滞留してしまい路地を巡る企画が少ない”という反省から改善を行った。2018 年度は約 40 名が参加し、本学の学生は工学部建築土木工学科、同学部原子力技術応用工学科、環境情報学部環境・食品科学科、同学部経営情報学科、大学院工学研究科といった多岐に亘る分野の学生が 16 名参加した。

学生の企画は、第 2 回学生会議を経て、第 2 回まちづくり分野 WG にて各班から最終プレゼンを行い、次の提案があった。学生は最終プレゼンで教職員から指摘のあった内容について修正し、6 月 1 日より高浜町和田地区にて作業を行うこととした。学生企画の最終決定としては、6 月 8 日に開催された第 3 回路地祭実行委員会ならびに、6 月 23 日に開催された第 4 回路地祭実行委員会にて各グループの代表者が発表し、地域住民の方々への賛同と理解を深めて決定することができた。

##### ① 企画・ものづくり班

路地を楽しめる工夫として、和田の魅力的な風景や場所を“宝”と定義づけ、これらの宝を探す企画や、メンコやコマ、竹馬など地域の方々とも一緒に楽しむことの出来る昔遊び、加えて路地景観へのライトアップ企画等の提案がなされた。

② 広報班

学生企画に関する作業状況の記事作成、インスタグラムやツイッターといった SNS を活用して路地祭の機運を高める工夫（例：地元住民を巻き込んだカウントダウン記事）や、当日の様子が分かるライブ配信等に関する提案があった。

③ 飲食班

和田漁港で水揚げされるイカに着目し、本来であれば捨てられるイカを活用したフードやブルーフラッグの認証を受けた世界的に美しい和田浜をイメージしたドリンクを提供する提案がなされた。

高浜町和田地区での作業は6月1日（金）より順次開始しており、学生たちは6月の毎週末（金・土・日）に可能な限り宿泊し、多くの日数を現地で過ごすことで住民の方々との信頼向上に努めた。路地祭実行委員会へのプレゼンの様子や、現地での作業の様子を Fig.1 から Fig.6 に示す。



Fig.1 第1回まちづくり WG 会議の様子①



Fig.2 第1回まちづくり WG 会議の様子②



Fig.3 路地祭実行委員会へのプレゼンの様子



Fig.4 地元の方と漁港での交渉の様子



Fig.5 照明付ベンチ制作作業の様子



Fig.6 SNS 用コンテンツの撮影の様子

### 3.2 まちづくり実践ワークショップの開催

2019年7月1日に開催される第10回路地祭に向けて、学生たちは自ら企画を考え、住民の方との協働によって検討を進め、次の企画内容を実施した。「来訪者に遍く和田の路地を歩いてもらう」を全体のコンセプトとして実践WSに取り組んだ。

#### ① 企画・ものづくり班

「2018 和田の遍～歩いて、見つけて、陣取って～」をテーマに、路地を活用した宝探しの実施や、「昔遊びロード」を路地に設定し、コマやメンコ、お手玉、けん玉といった昔遊びを体験することができるゾーンを配置した。さらに、和田地区で伐採した竹を利用して、照明付ベンチを製作し地区内10カ所に休憩スペースとして設置した。反省点は、「路地を巡ってもらおうとベンチを企画して、狭幅員の路地に設置したが使用の頻度が低いように感じた。」や、「宝探しや昔遊びは気温や天候に左右される。」等の意見があった。

#### ② 広報班

和田の魅力や学生生活の経過などを「路地祭へのあしあと」、「路地祭新聞」といった紙面および、InstagramやTwitterといったSNSを活用して当日までの情報発信を行った。また、当日はものづくり班・飲食班の実施企画について広報を行い、中山邸や路地を活用した昔遊びロードへの誘導、宝探し企画への参加の誘発を促した。さらには、当日の様子をリアルタイムにSNSで発信した。これらの成果として、Instagramの投稿数が92件、フォロワー168名、いいねの平均件数63件であった。Twitterでは、投稿数57件、フォロワー63名、見られた平均数959件であった。反省点として、学生からは「事前に、当日SNSで発信する内容について具体的に決めておけば良かった。」や、「何をどう伝えると多くの人に興味を持ってもらえるのか。」といった意見が挙がった。

#### ③ 飲食班

「和田の魅力を食べで伝える」をテーマに、2017年度の路地祭で提供し好評であった地元の蒲鉾と練り鯖を使用した“高浜の美味しいものサンド”に加え、2018年度は和田漁港で水揚げされるトビウオをフライにして沢庵や梅干しが入ったタルタルソースと一緒に挟んだ“和田の海鮮サンド”や、和田の海をイメージしたトロピカルジュースを商品開発し、空民宿を学生自らリノベーションした中山邸にて販売した。企画段階では、漁港で水揚げされるイカを使用したフードを予定していたが、漁獲量等の影響でトビウオに変更した。ホットサンド、トロピカルジュースともに50食、50杯を目標に販売し、完売することができた。また、企画・ものづくり班の協力を得て、中山邸のなかには製作した和田の海のミニチュア模型を設置して、トロピカルジュースと一緒に写真を撮影するといったインスタ映えを狙った企画も実施した。さらに、ゆったりとした時間を満喫できるスペースとして、学生自らが制作したハンモックを設置した。反省点として、「ホットサンドを提供するまでの時間を要した。」や、「炭酸飲料を好まない方への対応が出来なかった」等が学生から挙がった。

その他の企画として、空民宿の中山邸では「自転車のある暮らし展」を開催するとともに、メインストリートに位置する空店舗であった神谷で「路地祭発信拠点」を学生と地域住民との協働で運営した。また、他ワーキングとの協働に向けた取り組みとして、ふくいブランド創出分野ワーキングが商品化した県産品防災グッズ「福がこい」を中山邸にて来場者に紹介した。実践WS当日の様子等をFig.7からFig.16に示す。



Fig.7 情報発信拠点での様子



Fig.8 昔遊び体験の様子



Fig.9 学生が運営する和田カフェ内の様子



Fig.10 和田の海のミニチュア模型とドリンク



Fig.11 制作したベンチ



Fig.12 制作したハンモック



Fig.13 インスタグラムでの広報



Fig.14 路地祭当日配布の広報コンテンツ



Fig.15 SNS へのリアルタイム配信



Fig.16 空民宿を利用した「自転車のある暮らし展」

### 3.3 まちづくり実践ワークショップを終えて

実践 WS を終えて、参加学生より Table.2 に示す意見が挙がった。

Table.2 参加学生からのコメント

① 自分の長所とともに、短所も発見できて良い機会となった。個人的には大きな収穫があった。
② 他人と協力しながら物事に取り組むことができ、協調性が身に付いたと思う。
③ 参加する以前はとても不安があったが、とても楽しく取り組むことができた。来年も参加したい。
④ 地元ではできないような貴重な体験をさせてもらい、とても楽しかったです。
⑤ 初めての参加でしたが、先輩たちに優しく教えてもらいとても楽しく活動することができた。新しい人たちと関わってよかった。
⑥ 私が参加し始めたのは5月中旬あたりからだったのですが、この約2ヶ月の間とても忙しかったです。ただその分以上に楽しくて、また参加したいと思っています。

実践 WS を通して身に付いたと思う力について Fig.17 に示すと、他者との豊かな関係を築く力（コミュニケーション力）が 68.0% と最も高い割合であった。続いて、意見の違いや立場の違いを理解する力（柔軟性）が 64.0%、物事に進んで取り組む力（主体性）が 56.0% であることが分かる。相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）についても 52.0% と過半数を超えた。一方、学生の参加者は約 40 名であったが、回答は 25 名に留まった。25 名に留まった理由として考えられることは、学生への依頼方法や依頼日が挙げられる。学生の自主性を重んじて、学生から学生に回答協力の依頼を促す方法をとった。また、路地祭が終了後にまちづくり分野 WG として学生を含めた会議を実施しなかったことも影響していることが考えられる。これらは、2019 年度の改善点であり、早急に課題の整理に努めたい。

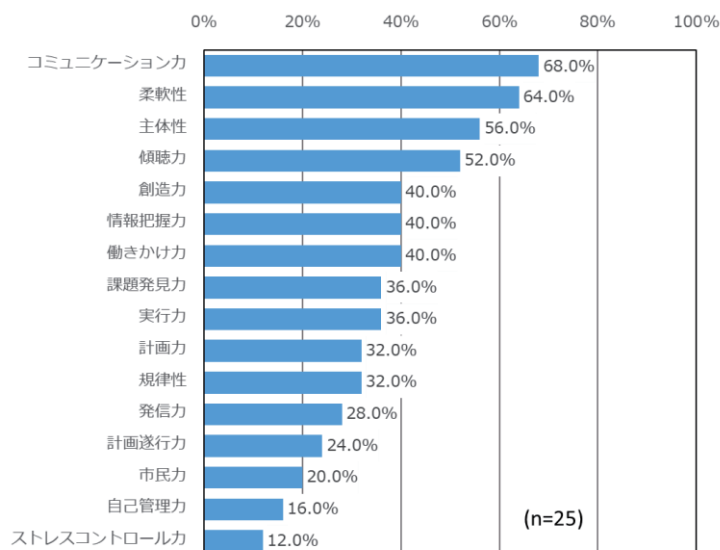


Fig.17 参加学生が実践 WS を通して身に付いたと思う力

## 4. おわりに

COC+まちづくり分野 WG では、地域での実践活動を通して「まちづくりを担う人材の育成」とりわけ次代を見据えた地域創生と地域コミュニティを担うことの出来る人材育成を目指している。具体的には、①学生が地域の課題を理解したうえで、地域課題解決に資する人材の育成、②生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働し新たな価値を創造することの出来る人材の育成といった2点の人材育成に努めるとともに、学生の地域

での学びへの動機づけの創出を今後もより一層図りたいと考えている。また、本学学生の工学基礎力・人間力はもとより、情報収集分析能力、企画力、実践力等のスキル向上を目指したい。さらには、福井大学をはじめ県内大学との連携を強めまちづくり WG としての取り組み内容や課題を整理したうえで、実践的にまちをフィールドとして学生たちが学ぶことの出来る環境を創出したいと考えている。

実践 WS の開催に向けて、先駆的な取り組みを行っている地域で実践的に活動している方々との交流を通して、学生自らが学ぶことによって学生のさらなる意識向上、リーダーシップの向上を目指したい。さらには、ふくい地域外で取り組んでいる学生とも交流を促し、特に本学学生のプレゼンテーション力、企画力を深化させる試みを 2019 年度にも実施したいと考えている。

### 謝 辞

COC+まちづくり分野 WG での活動に際し、WG 幹事校である福井大学の野嶋慎二教授をはじめ、各大学の教職員の方々、高浜町の方々に多大なるご支援・ご協力していただきました。ここに記して謝意を表します。

### 文 献

- (1) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告 (その1)”, 福井工業大学研究紀要, Vol.47 (2017), pp.343-348.
- (2) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告 (その2)”, 福井工業大学研究紀要, Vol.48 (2018), pp189-195.

(2019 年 4 月 26 日受理)